

令和元年6月15日

福岡医療専門学校
校長 藤瀬 武 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下迫 勇夫

学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

- 1 学校関係者評価委員会 委員 (五十音順 敬称略)
 - ① 池田 悦子 医療法人正明会 諸岡整形外科病院 相談役
 - ② 上野 啓介 うへの整骨院 院長 6期卒業生
 - ③ 北原 孝子 朝日ホーム有限会社 顧問
 - ④ 木下 健一郎 有限会社ひかり(通所介護ライズ) 代表取締役
 - ⑤ 下迫 勇夫 福岡医療専門学校 非常勤講師
 - ⑥ 馬場 鮎美 福岡東鍼灸整骨院 副院長
 - ⑦ 松山 基光 松山整骨院 院長
 - ⑧ 山中 知愛 医療法人 西福岡病院 放射線科 科長

- 2 学校関係者評価委員会の審議スケジュール
 - (1) 自己点検・自己評価報告書の書面審議(平成31年4月)
 - (2) 令和元年6月15日(土)学校関係者評価委員会開催

- 3 学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標 「教育活動・学修成果」について

- 国家試験合格率の全国平均が下がる傾向にある中、5学科ともに全国トップクラスの国家試験合格率を達成したことは評価できる。診療放射線科と鍼灸科にそれぞれ1名の不合格者があり、「国家試験全員合格」という目標は達成できなかったが、引き続き目標達成に向け、学生一人ひとりに対応したきめ細やかな教育指導を期待する。
- 情報化社会の現代において、タブレットの導入など時代に沿ったデジタル化への対応を行っていることは良い。就職後の即戦力となれるような学生の育成を望む。

2 重点目標 「職業実践課程」について

- 文部科学省が認定する職業実践専門課程を通じた実践的な教育活動への取り組みは、質保証教育・向上の点で良い。引き続き職業教育において、他の専門学校や大学のモデルとなれるよう取り組んでもらいたい。
- 教員の指導力の向上を目的とするFD研修会が年2回開催されており、教育に関する指導方法等を発表し合うよう取り組まれていることは評価できる。各教員が学会への参加を推奨することについても、継続して推進して欲しい。
- 教育課程編成委員会が年2回実施されている事と、月に1回の全体教職員会議が行われていることは重要であり、継続していく必要がある。

3 重点目標 「専門職大学の設置」について

- 福岡専門職大学（仮称）の設置認可申請書を取り下げ、専門学校における医療人の養成を行うことは、「原点」に戻り、教職員一丸となって教育活動に取り組む必要がある。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階 評価平均
<ul style="list-style-type: none">○ ホームページやパンフレットでも公表してあるが、学校の将来の展望も検討されており、わかりやすい表現で定められている。 ○ 以前から感じていたが、他校の生徒に比べると、学力が高い事と学生の質の高さを感じさせられる。しかし、臨床では学力では賄いきれない壁にぶつかったときに立ち向かえるような精神的な強さも必要であり、そのような人材育成にも力を入れてもらいたい。 ○ 社会人としての礼儀作法や電話対応など一般的な常識や、社会人としての立ち振る舞いに関する教育も行ってもらいたい。	3.8

2 学校運営

<ul style="list-style-type: none">○ 月一度行われる教職員会議には、理事長を含めた全員教職員だけでなく、理事や監事が出席することになっており、非常に重要な取り組みである。意識の統一や方向性を共有するには有益な手段が取られている。 ○ 時代のニーズに合わせた取組みが、行われている印象がある。 ○ 各会議で行われた内容を記載した議事録を、教職員がいつでも閲覧できるようなシステムがあることは貴重だと思う。 ○ 情報のデジタル化が進んでいる時代において、情報の漏えいは深厚な問題である中、セキュリティー関係の取り扱いがきちんと行われていると思われる。 ○ 各学科の教員を集めた組織を活用して校務分掌を行うことで、学科の枠を越えた教職員間の意識が統一されている。教職員間の連携、情報の共有がさらに強化されることを期待する。	3.8
---	-----

3 教育活動

<ul style="list-style-type: none">○ 教育課程の改定などを的確に捉えた方針が定められていると思われる。今後は医療機器の造歩、ゲノム研究、医療技術の進歩への対応など、時代に沿った工夫を更に取り入れてもらいたい。○ 教育課程の検討は職業の専門性の向上につながり、到達目標やカリキュラムの見直しは社会が求めているニーズにつながると思われる。○ 成績評価や単位認定基準を明確化されていることにより、学生一人一人のレベルがわかりやすくなっている。○ 教職員同士の連携がきちんと行われていることが、学生の安心感へとつながっている。全体での教職員会議や議事録の回覧システムなど、タイムリーな情報共有が有益な教育へとつながっていると考えられる。○ 目標とする資格は明確にされており、学生自身も目標がはっきりとしていることが高い合格率へ繋がっていると思われる。	3.7
--	-----

4 学修成果

<ul style="list-style-type: none">○ 国家試験合格率は理学療法科が100%、診療放射線技科98.0%、看護科100%、柔道整復科100%、鍼灸科が97.4%であった。診療放射線科と鍼灸科において、わずかに点数が足らず国家試験に落ちた者がいるが、すでに来年度に向けて学習に取り組んでいることは評価できる。○ 求人倍率は高い数値を維持している。就職を希望する学生は、全員が就職できる状況にある点は良い。○ 卒業生を知っているが、社会人としてとても良い印象を受けている。困難なことかもしれないが、卒業後の活躍の状態を把握しておくことは、在校生の今後の就職活動へとつながっていく。年2回行われている校友会が、非常に重要な意味を担っていると考えられる。	3.8
--	-----

5 学生支援

<ul style="list-style-type: none">○ 企業説明会を開催していることは良い。新校舎設立にともない、学生支援室が設置され、今後さらに学生支援体制が活躍することを期待する。○ 卒業生との交流の機会をもっと増やしてもらいたい。経済面や学習面でのサポートにつながると考えられる。○ 独自の授業料減免制度は、資格取得を目指す学生には希望を与えていると思われる。学習面だけではなく経済的サポートも並行して行っていくことにより、学生への負担の軽減に大きくつながると考えられる。	3.5
---	-----

6 教育環境

<ul style="list-style-type: none">○ 新校舎に設置された図書館やラーニングコモンズなど、昨年度よりさらに充実した施設と設備になっており、学習を進める上では十分な設備体制だといえる。○ 整った環境において、学生もただ覚えていくような学習ではなく、話し合ったり意見を交換し合ったりしながら理解して覚える力を身に付けてほしい。	3.9
--	-----

7 学生の募集と受入れ

<ul style="list-style-type: none">○ 臨床現場に学生募集の案内が送られてくるが、高い合格率以外の特徴も取り入れていくと良い。○ 全職員で募集活動を行っているとのことだが、具体的な内容は不明である。職員全員が共通の認識を持つことは重要であり必要不可欠であるので情報をもっと公開してもらいたい。○ オープンキャンパスにより、施設の素晴らしさや教育体制について更に公開していくことが募集活動に大きく関わると思われる。	3.8
--	-----

8 財 務

○ このように施設の拡大や充実した環境を展開できるのは、財務管理・運営が適正に行われているためだと思われる。	3.7
--	-----

9 法令等の遵守

○ 個人情報の保護は今の時代、大変重要なことであり、教員側の対策も大変だと思われる中、十分対策されていると思われる。学生にも重要なことだという意識付けをしっかりと行ってほしい。	3.7
--	-----

10 社会貢献・地域貢献

○ 前年度より充実している印象を受ける。ハワイ、台湾研修に加えてオーストラリア研修が追加され、グローバルで多様な社会を目にする機会が増えたことはとてもいいことである。	3.7
○ 災害時のボランティア派遣など、医療人として必要なことであり、職員、学生を含めて取り組まれているのは大変すばらしいことだと思う。	
○ 地域のことをしっかりと考え、地域のQOL向上につながるような取り組みを今後も期待したい。	

11 まとめ

各評価項目の評価は、平均3.7（4段階評価）であり、高い水準で保たれている。施設環境の整備や、定期的な教育体制の見直しを行い、学校全体が学生一人一人に対して全力で組んでいることがよく理解できた。今後も医療機関や地域との連携、更に教職員一人一人の質向上を期待したい。

一方、近年の傾向として、挨拶やマナーといった一般社会における基本的な行動ができない若者が増えてきている現状である。専門性を持った授業を期待するが、社会人としての自覚と行動ができるよう学生自身に目的意識を持続させ、さらなる人間性および社会性の育成についても期待する。